

県外研修に参加して

(舞鶴引揚記念館)

「県外研修に参加して」 人権機関有田川委員 片畑 俊雄

8月23日(火)、人権機関有田川委員14人、町職員2人参加のもと、研修地である舞鶴引揚記念館に予定どおりに到着しました。

引揚についての詳細を以降に記します。

○引揚とは1945年第二次世界大戦の終結にともない、当時海外に残された日本人660万人以上の方々を帰国させること。

○舞鶴では主に旧ソ連や中国から、昭和20年から昭和33年までの13年間で66万4,531人の引揚者を受け入れた。

○終戦後、大陸に残された日本人および57万人が旧ソ連へ送られ、そのうちの47万2,000人が、シベリア・



コーカサスなどの北極圏の収容所に抑留された。収容所では、①強制労働②飢え③寒さ④狭い居室(2畳に6人)⑤意思の疎通ができないなど、肉体的、精神的な迫害を受けた。

舞鶴引揚記念館は1988年に日本全国からの寄付を受け、舞鶴市が設立したものです。苦難に満ちた引揚と旧ソ連領内の抑留生活の歴史を後世に伝え、平和の尊さを世界に伝えるため、資料・模型写真など1万2,000点を保持し、常設展示1,000点を催しています。

今回の舞鶴引揚記念館での研修で感じたことを記します。

内地では戦争は終わっても、外地では終わっていない。外地では戦争期間以上の抑留生活を余儀なくされた。今の時代のように人権もなく、ただの物として扱われた。戦争によって派生する出来事をわきまえ、戦争の悲惨・平和のありがたさを痛感しました。

また、戦争・抑留生活で亡くなられた方々に敬意を払い、感謝の気持ち忘れず、日本人として平和な世界になるため何ができるのか考える良い機会となりました。

皆さんも一度、舞鶴引揚記念館を訪れてみてはいかがですか。何か心に感じるものがあるはずですよ。

※いただいた原稿を原文のまま掲載しています。

辺真一氏の講演会について 人権機関有田川会長 水野 哲男

人権講演会「アジア諸国とどう向き合うか」という演題で講演会を持ちました。

参加者の皆さんにアンケートをお願いしましたが「テレビなどで聞けない話が聞けた」「よかった」「北朝鮮、韓国と日本の関係がかいま見えた」などの感想を多くいただきました。

しかしその一方で「演題に沿っていない」「人権についての話は？」という意見もありました。

私自身も、日本人と朝鮮人の国民性に違いがあり、お互いに理解し合うよう努力することが大切であるということや、アジア諸国の現状を説明する話には引き込まれるものがありましたが、時間の都合もあって「今後の展望」に至ることはなく、質問の時間もとっていただくことができなかったことを、残念に感じています。

今後は演題の確認と内容の打ち合わせを密にし、人権講演会によりふさわしい内容になるように努力していきたいと考えています。

※いただいた原稿を原文のまま掲載しています。

お知らせ

全国一斉「女性の人権ホットライン」強化週間を実施します。

●期間／11月14日(月)～20日(日)

●時間／8時30分～19時

※ただし、土・日曜日については、10時～17時

●電話番号／0120・070・

810(全国共通ナビダイヤル)

●相談内容／夫・パートナーからの暴力やストーカー、セクハラなどの女性をめぐる人権について何でも伺えます。

相談は無料で、秘密は厳守されます。法務局職員または人権擁護委員が相談に応じますので、お気軽にご相談ください。

●問い合わせ／和歌山地方法務局

和歌山県人権擁護委員連合会

☎073・422・5131

人権特設相談所

10月20日(木)、人権特設相談所を開設いたします。相談は無料で、秘密は厳守されます。

●場所／金屋庁舎2階

●時間／13時～16時

人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 52221111

FAX 3244827